

ジオ太とジオ美の旅

④寒風山

「だいぶ寒くなってきたね」「雪が降る前に男鹿半島のすばらしいジオサイトに出かけましょ」とジオ太さんとジオ美ちゃんは話し合っています。2人は男鹿市ジオパーク学習センターからいつも眺めている寒風山に出かけることにしました。

「頂上に着いたわ。ここから見る眺めは最高ね」とジオ美ちゃんは手を広げて大きく深呼吸をしました。ジオ太くんは「見渡すと男鹿半島の大地の歴史がいろいろ見えてくるね」と目がキラキラしています。登ってきた眼下を見下ろすと、左右に大きなくぼみが見えます。右は「ここは大きな噴火口に溶岩が流れた跡だね。火口壁もあって迫力がある」とジオ太くんは興奮した様子。左は「この小高い山は姫ヶ岳(写真:右上)。下のくぼみは水蒸気爆発の火口だわ。さらにその上の道路のカーブ付近に小さな火口も見える」とジオ美ちゃんが指さしました。さらに頂上から天王の砂丘地や八郎瀧の干拓地を見渡すと、6000年前の男鹿島からしだいに半島になっていく大地の動きが見えてきます。「この動きを縄文人がずっと見ていたのね」とジオ美ちゃんは感慨深そうに見つめています。

頂上から、そして姫ヶ岳を下ると南西部に大きな石が積み重なった「鬼の隠れ里」(写真:右下)が見えてきました。「溶岩の盛り上がった火山岩尖だ」「つまり粘り気の強い溶岩が地上に顔を出して崩れた跡ね」と2人は話しながらその迫力に驚いたようです。

その外輪を登っていくと眼下に大きな火口が望める「板場の台」に到着しました。「凹凸の大地が広がっているわ。溶岩が流れて固まった溶岩じわね」「近くには脇が速く冷えて固まった急な崖も見えるよ。これは溶岩堤防だ」と、2人は迫ってくるような火山の動きを体感して「すごい!」を連発しています。

いつも見ている大好きな寒風山が、2~3万年前に何度も噴火した火山であることを実感した2人は、地球のダイナミズムに改めて感動したようです。

